

Scoop

2001年4月

クオリス

トヨタ

開発コード182N クオリスマークIIワゴン独占ナマ撮り！
東京モーターショーでの披露後11月、待望のデビュー!!

まだ誰も知らない新型クオリスをスクープ班が射止めた。開発コード「182N」を掲げ、11月のデビューに向けて開発されていることは以前からキャッチしていたが、その姿に迫ったのは今回が初めてだ。

そもそも、現行クオリスはマークIIワゴンとは名ばかりで、その実態は96年デビューのカムリ・グラシアと基本コンポーネンツを共有する兄弟車だ。V6エンジンとFFレイアウトを採用し、スペース効率を高めて使い勝手のよさに重点を置いたものの、同クラスのステージアに比べて存在感が出せなかった。かたやステージアはローレルと同じFRプラットフォームに直6ターボエンジンを載せ、全高を低く抑えてユーティリティ性よりも走る楽しさを優先して成功を収めた。

そんな日産の成功劇を横目に、トヨタもFRスポーツワゴンの開発に着手。その結果、現行クラウン・エステートはアスリート系メインのラインナップで登場し、7月にはセダンが振るわないアルテツァにもワゴン「スポーツクロス」が加わる。そして、クラウンとアルテツァの両FRワゴンのスキ間を埋めるのが、ここにスクープした新型クオリスに課せられた使命なのだ。もちろん、ベースには現行マークIIのFRプラットフォームが流用される。



[zoom](#)

これが本邦初公開の新型クオリス確定ショットだ。ドアパネルはマークIIと共通だが、それ以外の外板プレスはすべて専用品で、オリジナリティあふれる外観デザインに仕上がっている。

外観デザインを見てほしい。マークIIの面影はほとんど見当たらず、まったくの独立ブランドとして発売されることがうかがえる。観察深い読者ならボディ側面のドアパネルがマークIIと同じであることに気付いたかもしれないが、これでコストが抑えられて手頃な価格が打ち出されるのなら、ボくらユーザーは大歓迎すべきなのかもしれない。

最近のトヨタ車のトレンドにならい、ヘッドランプはフェンダー上方まで回り

込む大胆な形状にデザインされている。内側には独立ランプが配置され、シャープな4灯マスクをうまく構成。ただし、ラジエターグリルも含め、細部のデザインは発売前に変わる可能性もある。

一方のリアビューはシンプルに仕上がる模様だ。クラウン・エステートのようなリアゲートにまたがるコンビランプの採用は見送られ、ボディ側で完結。その代わりに、縦長デザインを用いてランプ面積が拡大されており、リアウインドウへと食い込んでいるのが印象的だ。高級車に欠かせないメッキガーニッシュも装備される。

フロントノーズに収まるエンジンはマークIIと同じ直6ユニットだ。手頃感のある1G-FE型2リットル(160ps/26・0kg-m)と、直噴技術が目新しい1JZ-FSE型2・5リットル(200ps/25・5kg-m)がカタログのスペック欄に名を連ねる。さらに、フラッグシップ・モデルとしてクラウン同様、1JZ-GTE型2・5リットルターボ(280ps/38・5kg-m)が採用される可能性もあるが、これに関してはまだ確認できていない。

最後に発表スケジュールに関して。現行クオリスは10月まで継続生産され、11月から新型モデルの生産が立ち上がる計画だ。

ちょうど東京モーターショーの時期とバッティングしているため、2年前のクラウン・エステートと同じ手法が用いられるかもしれない。つまり、モーターショーに参考出品され、閉幕後に発売されるという段取りだ。こうして新型クオリスを知ってしまったいま、秋の東京モーターショーが待ち遠しくてたまらないね。



[zoom](#)

マークII以上に大胆なヘッドランプ形状が目立つフロントマスク。ターンシグナルも組み込まれ、一体ユニットとして構成されるはずだ。バンパーにはコーナリングランプが内蔵される。

現行マークIIクオリス



[zoom](#)



[zoom](#)

[戻る](#)







